

執筆紹介

むらかみ しゅんすけ 村上 俊介 本学経済学部教授・本研究所所長
おおやね じゅん 大矢根 淳 本学人間科学部教授・本研究所事務局長
しまね かつみ 嶋根 克己 本学人間科学部教授・本研究所運営委員

〈編集後記〉

今号では、ベトナム・ハノイで開催された国際シンポジウムに登壇・報告した社研メンバーの日本語論文3本をとりまとめました。同国際シンポの概要については、本号冒頭の「前書き」（村上所長）をご覧ください。ここでは、専大社研とベトナム社会科学院（VASS）との、国際交流組織間協定に基づくこの数年の取り組みについて、記しておきます。

VASS 東北アジア研究所と専大社研では 2015 年 1 月に国際交流組織間協定の（3 年）更新を行い、活発に研究交流を重ねて来ています。2013 年 9 月には、国際シンポ「専修大学社会科学研究所・ベトナム社会科学院共同開催 日越外交関係樹立 40 周年（1973-2013）記念シンポジウム『日越関係：40 年の回顧と将来の方向性』」（その概要と関連論文については『月報』No.606・607 合併号を参照）が実現し、同シンポ後、両研究所トップ会談が行われ、いくつかの研究交流メニューがすり合わされました。

一つはお互いの学術研究誌に論文を投稿・掲載し合うことで、さっそく社研『月報』No.605 に先方からの投稿論文（英語）が掲載されたことをかわきりに、年に数回、両研究所メンバーが相互訪問して、その度に研究会が重ねられて、研究成果が相互に報告・投稿されております。

また、社研から日本語文献を寄贈することも約束され、今年度まで二度、貴重な図書、その多くが、定年退職される先生方から社研に返納される貴重な専門文献（数十年前の最先端の学術書、いわゆる古典と言われる数々）であります。これが寄贈され、ハノイの研究所の書庫に収められています。

さらに、この両研究所の交流関係は、専大サイドでは社会知性開発研究センターの研究グループ（社会関係資本研究センター／ソーシャル・ウェルビーイング研究センター）とも協働して行われていることから、昨年度は VASS から博士論文審査の依頼があったことで、Dang Thi Viet Phuong さんに博士（社会学）を授与しています（社研所員が審査メンバーとなりました）。

そしてこのたびは、こうした国際交流の一環として、社研から 3 人がハノイに招待されて、国際シンポに登壇・報告する機会を得ました。

現・社研・村上所長体制は、この 2 期 4 年間、前・町田体制最後に締結されたこの国際交流組織間協定を大切に維持・展開し、そして来年度発足の次期・新体制に引き継ぐことになります。今後一層の交流の発展を祈念します。

(J.O)

